大学サッカーにおける
ファンイベントと試合観戦意図に関する研究
早稲田大学ア式蹴球部に着目して

A study of Fan Events and Attendance Intention in University soccer: Focusing on the Waseda university association football club

1K10C073-2　榎本　大希
主査 間野義之 先生　　副査 作野誠一 先生

【研究背景】

近年大学サッカーの競技レベルは向上し続けているが、その注目度は大学サッカーのレベルに見合ったものではない。大学サッカーは育成年代におけるチームのレベルとしても、プロ選手の育成機関としても日本の最高レベルにあるカテゴリーであり、大学サッカーの価値向上は日本サッカーの強化に大きく貢献するのであると考えられる。しかしJリーグ、J2リーグより注目度が低いことはもちろんのこと、カテゴリーが下であるはずの高校サッカーのほうがはるかに注目度は高いのが現状である。本研究では､大学サッカーの観客動員数増加に貢献する、一考察を示す。

【目的】

プロスポーツクラブ経営において、観客動員数を増加させることは最も重要なことであり、スタジアムに観戦に来るような熱心なファンを獲得するには、ファンイベントが重要なツールであると考えられてきた。

それに伴い、プロスポーツにおいて多くの研究がされてきたが、大学サッカーのようなアマチュアスポーツにおける、ファンイベントの研究はこれまで行われてきていない現状がある。

本研究では、関東大学サッカー1部リーグに所属する、早稲田大学ア式蹴球部の開催する、サッカー教室に着目し、同部が主催するファンイベントである、サッカー教室の満足度及び参加経験がチームアイデンティフィケーション（チームへの愛着度）または、観戦意図に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

本研究では、早稲田大学ア式蹴球部が開催する、サッカー教室に参加する子供たちの保護者を対象とした。アンケートを行い、イベントの満足度と、チームへの愛着度、試合観戦意図の関係を調査することにした。はじめに、サッカー教室の参加回数が各項目に及ぼす影響を明らかにするために、サンプルを過去にサッカー教室に参加した経験がある人（参加経験者）と今回初めて参加した人（初参加者）に分類し、各項目についてT検定を行った。次に、サッカー教室の満足度が及ぼす影響を明らかにするために、サッカー教室の満足度が高い人と、低い人に分類して各項目についてT検定を行った。

【結果】

参加経験者と初参加者を比較した結果、イベントの満足度については有意差は見られなかった。チームアイデンティフィケーションについては、すべての項目で過去の参加経験者の郡が、初参加者に比べ、有意に高値した。観戦意図についての比較では、過去の観戦経験の項目で有意差がみられた。

サッカー教室の満足度の高低に分類した群の比較では、チームアイデンティフィケーションと観戦意図の両項目とも有意差が認められなかった。

【考察】

第1点目にファンイベントの満足度は直接観戦意図には結びつかない点である。満足度を高めるとともに、観戦意図を高めるにはチームアイデンティフィケーションを高める必要があるのではないかと考えられる。

2点目に、サッカー教室への参加回数が、チームアイデンティフィケーションや、観戦意図に影響を及ぼした点である。サッカー教室に何度も参加してもらえるような取り組みをすることが有益であると考えられる。

【結論】

1）早稲田大学ア式蹴球部の開催するサッカー教室に複数回参加している保護者は、イベント満足度が高くなるとは言えないが、チームアイデンティフィケーション、公式戦観戦経験及び観戦意図が高くなる。

2）イベントの満足度が高い人ほど、チームアイデンティフィケーションや観戦意図が高くなるとは言えない。